

# 参院選の大争点

## 戦争法施行に反対

戦争法が施行された20日、戦争する国づくり反対福井県連絡会が福井市のJ.R福井駅西口前で宣伝に取り組み、廃止に向けた共同を呼びかけました。南條光麿事務局長や、九条の会ふくいの屋敷敏美事務局長、日本共産党の金元幸枝県書記長、佐藤正雄県議など約20人が駅頭に立ち、アピールしました。

### 「廃止へ野党協力」訴え



### 福井

屋敷氏は、防衛省が、戦争法への国民の根強い反対世論から、当面は運用開始を先送りする方針であることに、「危険だと政府自ら認めているようなものだ。憲法を踏みにじっていることは明らかだ」と指摘し、「戦争法廃止は参院選の最大の争点だ」と訴えました。

佐藤氏は「はっきり廃止に踏み出すべきだ。野党と力を合わせ、廃止のために頑張ろう」と力を込めました。福井市の女性(41)は「身内が自衛隊員なので心配です。防衛大を卒業しても自衛隊を選ばないが、わがわがも気持ち悪いです」と言いました。永平寺町の女性(22)は「若い人が危険にさらされるのは、私も反対」と話しました。

戦争法廃止を訴える宣伝の参加者ら  
20日、福井市

## 「黙ってられない」



ボードを掲げ「戦争法廃止」をアピールする参加者ら。20日、愛知県春日井市。

愛知春日井市で27日、「立憲主義の回復 日井ネット」が発足集会を開き、市民2200人が参加しました。

### 野党4党初あいさつ

岐阜・中津川総がかり行動で

岐阜県中津川市で26日、戦争法廃止、立憲主義の回復を求めて集会が行われ約1800人が参加しました。主催は、民商、新婦人、9条の会など15団体で構成する「戦争させない共闘で勝利しよう」とあいさつしました。野党4党が初めてそろってあいさつしました。

同ネットは昨年9月に開いた「ストップ安保法案 in 春日井集会」の呼びかけ人を中心に2日、立憲主義の回復と安全保障関連法の廃止を求め結成しました。開会あいさつで事務局長の宮田陸奥男弁護士が結成に至る経過を報告し「戦争法廃止の共同を広げよう」と訴えました。元裁判官、子育てママや高校生、政代表らがリレートークをおこない戦争法廃止への思いを語りました。元裁判官の猪瀬敏雄氏は「安保法制は破たんした法律。違憲の法律は廃止しかない」。3児の母親の瀬川あすかさんは「戦争法、原爆再稼働、米軍辺野古新基地建設など安倍首相は人の命を軽んじている。子どもの未来のため黙っていられない」と強調しました。高校の卒業式を終えたばかりの女子学生(18)は「新しく得た選挙権を無駄にしたい。私たちが若い240万人の新興権者の力で政治を変えたい」と語りました。政界から、日本共産党の宮地ゆたか春日井市議、社民党春日井支部長が訴え、民主党の元衆議院議員、春日井維新の会の市議からメッセジが寄せられました。リレートークに先立ち、愛敬浩二・名古屋大学大学院教授が「安保法制の今」目米同盟は希望の同盟か」と題して記念講演をおこないました。フィナーレは参加者全員が「戦争法廃止」のボードを掲げコールしました。

日本共産党恵那地区委員長の前上諭(さとし)氏は「市民運動の力が野党の結束につながった。戦争法廃止の2000万署名をやり切り、参院選で自公を少数にし、政治を変えよう」と述べました。民主党の山下八洲夫元参議院議員、社民党の森廣茂県連代表、新社の佐藤光司県本部委員長が決意を述べました。各団体からも決意表明が述べられました。集会後、参加者は「戦争反対」アピールを許さないなどのプラカードを掲げ、市内をデモ行進し、「野党は共闘」「選挙に行こう」とコールしました。60代の男性は「野党みんなが集まってよかった。元気が出せる」と感想を語りました。

3/30 五旗